

眉

庇ノ體ハ、如四方輿上白袖ハ唐草中ハ菅文也、

〔輿車圖考九〕眉

くるまのやかたの前後の棟を云ふ、雨眉は唐弓を伏せたるやうなるかたちをいふ、くしがたのやうなるはつねなり、

〔桃華藥葉〕一車事

網代車無庇、眉如常八葉、

〔大鏡八〕いにしへのいみじき事どもの侍りけんは去らず、なにがしものおぼえて後ふしぎなりしことは、三條院の大嘗會の御襖のいだしぐるま、大宮后一彰子皇太后宮后三妍子よりたてまつらせ給へりしぞありしや、大宮の一の車のくちのまゆに香囊かけられて、そらだき物たかれたりしかば、二條のおほちのつぶとけぶりみちたりしさまこそめでたく、いまにさばかりのみものまたなしといへば、略下

〔明月記〕寛喜元年十一月廿四日戊子、明日相國藤原道家初著直衣、參内給公卿不扈從、殿上人三人、半蔀車之

眉ヲ如唐棟被造云、

〔輿車圖考九〕棟

やのむねのこと、やかたのうへに、前後へ通りし木なり、

〔蛙抄車輿〕檳榔車

棟表袖表、左右各覆檳榔、略中内方棟、及左右各有格子、

〔輿車圖考九〕棟融

融は通なり、車の前の中央に、あびまきつけたるをいふ、

〔蛙抄車輿〕文車

棟融

棟